

小田川っ子



平成28年度
白河市立小田川小学校
平成28年10月21日(金)
第25号(118号)
発行者 校長 小檜山 健

出前授業「いのち」の教育。。。 生きているだけで100点満点

10月1日、5年生は、助産師の先生による出前授業で、「いのち」についての学習をすすめました。

針の穴ほどの大きさだった受精卵から自分の「いのち」が始まったこと。お母さんと、へその緒で結ばれていたこと。母親の子宮内の羊水（赤ちゃんのプール）の中で、10か月もかけて3000グラムにも成長し、産まれてきたこと。そして、家族に愛されながら今日まで育ってきたことを学ぶことができました。



次は、出産模擬体験でした。子宮に見立てた袋の中から〇〇さんが頭から出てきました。やがて体全部が出てくると、へそにひものようなものが付いています。「へその緒」です。そこで、〇〇さんのお父さんに登場してもらい、へその緒を切っていただきました。子どもたちはこの模擬体験を通して、「へそ」は、母親と胎児が結ばれていた証であることを、子どもたちは実感することができました。

最後に、先生から「生きているだけで100点満点」という言葉をいただき、子どもたちは「自分の命」そして「まわりの人のすべての命」の大切さを考えることができました。きっと子どもたちの心に残る貴重な体験となったことと思います。また、この授業を機会に、親子の絆をさらに深めていってほしいと思います。お家の方々には、事前アンケートや写真提供、お子様へのお手紙などにご協力いただき、本当にありがとうございました。子どもたちやお家の方の感想などを紹介いたします。

ぼくは、お母さんのおなかの中にいたとき、泳いだりしていたことを知って、とてもびっくりしました。ぼくとお母さんはへその緒でつながっていたことはお母さんから聞いたことがありました。ぼくは重かったと思います。一生懸命産んでくれたお母さんに「ありがとう」と言いたいです。(5年)

ぼくは、いのちはとても大事ななあと思いました。先祖がいて、その一人でも先祖がいないと、ぼくはいないので、先祖からもらったいのちを大切にしたいです。(5年)

毎日の生活の中で、改めて生まれた時の話や命の大切さを話したことがありませんでした。この授業に参加して、子どもと向き合い、生まれてきた時の話ができたと、親子にとって良い機会になりました。その日、家に帰りさっそく「へその緒」や「おなかのエコー写真」を見ながら、いろいろと話をすることができました。ふだんの生活の中で、つい傷つけるような言葉を言うてしまう時があるので反省しなくてはと思いました。生きているだけで本当に100点満点と気付かされた授業でした。(保護者様)

生まれるまでの大きさや体重が子どもたちに分かりやすく、人形もリアルなのでとてもよかったです。寝ているときなどに、抱きしめることさえしていなかったのを少し後悔しました。今日からは、子どものごきげんをみて、起きてるときや寝ているとき、いずれかに抱きしめようと思いました。そして、将来、娘が妊娠・出産するときは優しく見守り、孫をむかえたいです。(保護者様)

生きているだけで100点満点という言葉聞いて、涙が出そうになりました。勉強をしないと怒ってしまう時がありますが、この言葉を思い出して、子育てをがんばっていこうと思います。(保護者様)

妊婦体験を通し、歩く・立つ等の動作の一つ一つが大変だとしみじみ感じていたようです。生まれたこと存在そのものが素晴らしく尊いことを忘れずに優しく思いやりのある子になってほしいです。(保護者様)

